

避難所運営ゲーム



発案：太田敏一＋D-PR0135°

協力：鳥居宣之（神戸高専）

監修：防災リテラシー研究所

（表紙絵：多田裕亮）

目次

避難所ゲーム“チャレンジ！”とは	2
準備	
用意するもの	3
注意点	3
進め方	4
高専での実施例	
状況設定	5
第1ステージ：避難所の設置	6
第2ステージ：ハプニングが発生	7

避難所ゲーム “チャレンジ！” とは

このゲームは、明石高専の D-PR0135° のメンバーの協力を得て、若い感性を取り入れ作り
ました。

避難所ゲーム “チャレンジ！” は、今までの避難所ゲームにない特徴があります。

特徴① 点数を競うゲームであることで、チームで工夫する面白さがあります。

特徴② チャレンジできることで、現実にも多様な対応が必要な災害時の臨機応変性を学ぶこ
とができます。

特徴③ 特に大がかりな準備を必要としません。

このゲームのコンテンツは、実施する場にあわせて、その地域や参加対象に応じたものを
いろいろ考え出すことで充実させることができます。多くの場で実施をしていただき、コ
ンテンツを充実させていくことをめざしています。

このゲームをもっと知りたい、あるいは実施してみようとおもう方は下記にメールをくだ
さい。

ota-toshikazu@bosailiteracy.org <防災リテラシー研究所代表 太田敏一>

準備

【用意するもの】

- ・名札(またはポストイット)全員分
- ・プロッキーかフェルトペンのような筆記用具
- ・避難所となる学校(集会所)の図面(簡単なものでいい)
- ・避難所となる学校(集会所)での備蓄品リスト
備蓄品だけでなく災害時に使えるもののリストも
- ・模造紙またはA4用紙
- ・ポストイット

【注意点】

- ①避難所の様子について、事前に経験者の話を聞いたり、体験談を読んだりして、知識を得ておくことが効果的です。
- ②最初はまだ固い雰囲気支配して、意見が出にくいということもあります。あくまでもゲームとして楽しんでもらうというリラックスした状況が作れるように留意してください。チームの参加者同士の自己紹介やアイスブレイクなどをゲームの前におこなって、場をほぐしておくことが重要です。
- ③必ずしも、事前に加点するとした答えだけが正解ではありません。非常時の対応は、その時の知恵こそが問われてくるということを念頭に、ゲームマスターは、チャレンジしたチームの現場対応力への評価を点数に反映させられるように点数を決定するように努めてください。
- ④各々の問題に関連した解説を加えられるようにすることで学びのレベルが向上します。どのようなコメントを誰からもらうかの事前準備も重要です。
- ⑤メンバーが同じクラスの者ばかりになると、真剣さが欠如したり、視野が狭くなったりするので、できる限り、横断的、混合的なメンバー構成を考えるとともに、可能なら、第3者的なメンバーも加わるように工夫してください。

このゲームは、実施する学校や地域の実情に合わせていろいろなものが作れます。

実施前に、学校や地域の少数の代表の方々と一緒に設問を作ることで、地域の実情をその人たちが理解することができ、自覚が高まります。（設問作りに参加した人はゲームには参加しないようにしてください。）

今後、ゲームの事例を集めたり、あるいは、各ステージの「準備項目」や「ハプニング」を集めておくことで、より使いやすいものに発展していけると思います。各地の事例を下記までご連絡いただければありがたいです。

ota-toshikazu@bosailiteracy.org

<防災リテラシー研究所代表 太田敏一>

進め方

- ①1 グループ 5, 6 人に参加者を分割し、チームに分かれて得点を競います。
- ②全体の進行役およびゲームマスターの 2 人でゲームを進行します。
(進行役とゲームマスターは兼務できます)
- ③アイスブレイクの後、各チームのリーダーや書記を選出します。
- ④ゲームは 2 つのパートに分かれます。

「パートⅠ」は、避難所の設置についての場所や配置、役割分担、避難所で決めておくべきルールなどを考えます。

「パートⅡ」では、いろいろなハプニングが起こります。そのハプニングに対応できるように考えていたチームが得点をもらえます。

しかし、得点がもらえる解答を準備したチーム以外にも、有効な準備を考えていた場合、「チャレンジ!」を行う権利があります。

チャレンジをして、その対応が有効かどうかはゲームマスターが判断し、点数を付与します。

また、ゲームマスターの模範解答ですでに得点もらったチームも、それ以外にも工夫があった場合は、チャレンジで加点されます。(平成 30 年 12 月 2 日ルール改正)

パートⅡにおいて、各設問ごとに、適宜解説を加えることで、しっかりした学びになります。指導者は、この解説の用意を十分することが重要です。

- ⑤最終的に得点の多いチームが勝利します。

★第 1 ステージの設問や第 2 ステージのハプニングは自由に設定できます。参加者の状況や地域の実情に合わせて作ってください。

※具体的な進め方については下記の実施事例を参考にしてください。

高専での実施例

【状況設定】

20××年1月17日（土）、学校の体育館で学生10人と先生だけがクラブ活動をしていた。朝9時30分に地震発生。強烈な揺れが2分間続き、南海トラフでの地震と思われる。震度は6弱くらいだと考えられる。

2時間ほど経過して、高専に避難者が続々と集まってきた。その時点で約200人。車で避難してきた家族も30台ほどいる。あまり家財道具は積んでいない様子。避難者はまだまだこれから増えそうな状況。

周辺の道路は、大渋滞中で身動きが取れない。また、地下鉄も運行復旧の目処がたっていない模様。

ライフラインは、すべて途絶えていたが1時間半後に高専だけだが、電気だけが復旧した。部屋のエアコンは、地震で故障したのか作動しない。

各施設の詳細な点検はまだできていないが、体育館は、ガラスも割れておらず、屋根も落ちていない。事務室だけ、停電が回復してから電話が通じている。携帯電話、スマホはつながらない状態。プールには水が入ったままになっている。

地震で職員も数名が学校に駆けつけてきたので、すぐに倉庫内の備蓄を確認したが、飲料水200本（2リットルボトル）、缶詰200個、リゾット200袋、毛布200枚、サバイバルシート200枚であった。

【第1ステージ：避難所の設置】

時間：70分

<質問>

- ①当面、この10人で避難所を運営しないといけません。まず、10人の役割分担をどうしますか？どのような役割が必要か、考えてそれを列記してください。個人名の割り当てまでは不要です。
- ②使用する部屋は、メインの居住スペースは体育館としますが、その中にどのように場所を振り分けますか？収容できる家族は何家族ですか？平均1家族で4人として考えてください。また、どのように場所を決めますか？
- ③体育館以外の場所をいくつか使って特別な配慮をすることができる部屋や場所を確保できます。どこをどのような目的で使いますか？
- ④自動車の駐車場や自動車の動線をどうしますか？
- ⑤避難者の把握方法
避難者の出入りが激しいようなので名簿が必要です。どのような項目を入れた名簿を作りますか？
- ⑦避難所でのルールを作っておくべきとの声が出ています。何を目的にしたルールを作っておく必要がありますか？どの内容はどのようなものですか。また、作ったルールをどのように周知して実行されるようにしますか？

【第2ステージ：ハプニングが発生】

時間：70分

〈開設した避難所に次々ハプニングが起こる〉

①体育館にペットの犬を連れ込んできていると苦情が来ています。どのように対応しようと考えていましたか？

→1-③、⑦でペットの対応を考えるように提案があるグループは10点獲得

②寒いのでこたつを体育館に持ち込んだ家族がいて、それを見た他の家族が続々こたつを家から持ってきました。しばらくするとブレーカーが落ちて体育館が停電しました。これを想定したルールは考えていましたか？

→1-⑦のルールの中に避難所の電気使用について提案があるグループは10点獲得

③避難者の中に高熱の人がいました。3人家族の子供。時期的にもインフルエンザの可能性もあります。どのように対応しますか？

→1-③で「隔離部屋」を用意していたチームは10点

→1-⑤で職業を把握しているチームは10点

④夕方、近くの農家の婦人会の方々からおにぎりを届けてくれました。どこに運んで配布しますか？

→1-④で物資の動線、置き場、配布場所も考えて駐車場配置を計画したグループは10点獲得

⑤校内は禁煙ということになっているにもかかわらず、外で煙草を吸っているグループがいます。ルールはどうなっていますか？

→1-⑦のルールに喫煙について対案しているグループは、10点獲得

パンフレット作成協力：渡部桂太郎 多田裕亮

第2版：2018年11月24日

第3版：2018年12月2日

第3版一部修正：2020年9月30日